

日本社会における東南アジア出身交換留学生の 異文化理解に関する一考察

青木 香代子*・安 龍洙**

An Analytical Study of Intercultural Understanding of Exchange Students from Southeast Asia Living in Japan

Kayoko AOKI* and Yong Su AN**

要旨

本稿では、ベトナム人留学生2名、およびタイ人留学生1名を対象に、PAC分析（個人別態度構造分析法）を用いて、日本社会についてどのように理解しているか、そして日本人と分かり合うことについてどのように捉えているかについて調査を行った。その結果、1) 日本は上下関係が厳しい、2) 日本人は時間に厳しい、3) 日本は物価が高い、4) 日本人は自分の考えを言わない等、先行研究と共通する点も見られたほか、1) 日本人っぽくない日本人もいる、2) アルバイト先で日本語を笑われ嫌な思いをした、などの留学環境の個人的体験に基づく結果も得られた。特徴的な点として、日常的に外国人と積極的に関わりを持つ日本人と、外国人に対して消極的な日本人との間の行動のギャップに戸惑いを感じていること、日本留学中に置かれた環境や知り合った日本人によって日本社会や日本人に対する評価が大きく異なる可能性があることが挙げられる。

【キーワード】 東南アジア出身留学生、交換留学生、日本社会、異文化理解、PAC分析

1. はじめに

本研究は、日本社会における日本人と外国人の異文化相互理解について、外国人がどのように理解し評価しているのかを、個人別態度構造分析法（Analysis of Personal Attitude Construct: PAC分析法）を用いて、認知的・情意的観点から探る一連の研究の一部である。本稿では、2016年度から2017年度にかけて約1年間交換留学生として日本に滞在したベトナム人学生2名、タイ人学生

*茨城大学全学教育機構（〒310-8512 水戸市文京 2-1-1; Institute for Liberal Arts Education, Ibaraki University, 2-1-1 Bunkyo, Mito-shi 310-8512 Japan）

**茨城大学全学教育機構（〒310-8512 水戸市文京 2-1-1; Institute for Liberal Arts Education, Ibaraki University, 2-1-1 Bunkyo, Mito-shi 310-8512 Japan）

1名を対象に、それぞれの学生が日本社会をどのように理解しているか、そして日本人と分かり合うことについてどのように捉えているのかを探るとともに、その共通点を検討することを目的とする。

留学生が日本をどのように捉えているかについて、ベトナム人留学生の対日観に関する研究した安(2011)は、滞在歴1年および3年の留学生3名にPAC分析による調査を行い、共通した対日観として(1)先進国である日本に対して好印象を持っている、(2)年配者は親切で優しいが、若者は不親切である、(3)日本人は本音を見せず消極的であるため、友達になりにくい、(4)日本人は決められたルールや常識をよく守る、(5)日本人は人間関係が希薄である、(6)日本人は欧米には好意的であるが、アジアには無関心であるという結果を報告している。また、日本滞在歴3年～4年のベトナム人留学生3名を対象にPAC分析による調査を行った松田(2013)も、安(2011)の調査と同様の結果が見られたことが分かった。本稿の調査の対象としたのはベトナム人とタイ人であったが、タイ人を対象とした調査はまだない。東南アジア地域出身者の対日観に関する先行研究では、マレーシア人留学生を対象にした八若(2012)による研究、およびインドネシア人留学生を対象にした研究(安、2016)がある。ベトナム人留学生を対象にした研究と共通している点は、「まじめさ、勤勉さ、緻密さ」や「日本社会の規則性・秩序」「本心が分からない」(八若2012)、「規範意識の高い日本人」「本音を出さない日本人」「消極的な日本人」(安2016)などが見られた。

本稿では、これらの先行研究とも比較し、留学生がどのように日本社会を理解しようとしているか、また日本人と付き合うことについてどのように捉えているかを考察することとする。

2. 調査方法

調査は、1部と2部に分けられる。1部は質問紙による調査で、調査協力者の属性を尋ねるフェイスシートと「日本社会に対する異文化観」に対するイメージ評価からなっている。1部のイメージ評価の手順は以下の通りである。

- (1) あなたは「①私が生活する日本の社会、②私と日本人がつきあうこと、③私の国の人と日本の人が分かり合うこと」などの表現からどんなイメージが思い浮かびますか？思い浮かんだイメージを「単語、または短い文」で記入してください。上記①～③はイメージ項目に入れて、あなた自身のイメージを7個以上書き、全体のイメージ項目が10個以上になるようにしてください。
- (2) (1) で書いたそれぞれの「単語か短い文」が、プラス・マイナスのイメージに関係なく、「あなた自身の日本社会に対する異文化観」を考える時に、重要と考える順番に並べ替えてください。
- (3) 次に、「重要イメージ」のイメージ項目同士を比較して、二つの組み合わせがどの程度近いのか、判断していただきます。最初に、①と②を比較します。①と②の関係が、直感的なイメージやその内容から見て、どの程度近いのか、次の尺度で判断して、「1、2、3、…」と書いてください。同じ要領で、①と③、①と④・・・というふうに、最後の組み合わせまで比較して、記号1、2、3などで書いてください。尺度は、非常に近い=1/かなり近い=2/いくぶん近い=3/どちらともいえない=4/いくぶん遠い=5/かなり遠い=6/非常に遠い=7とします。

上記 (3) において作成された「重要イメージ対比表」を基に、ウォード法でクラスター分析をし、デンドログラムを作成した上で、2部のインタビュー調査を行った。

2部の調査では個々の調査協力者のデンドログラムに基づき、個別に1時間程度のインタビューを行った。インタビュー調査では、調査協力者にクラスター分析を行ったデンドログラムを見せ、各項目についての説明やクラスター分けについての解釈や、来日後の認識の変化について尋ねた。そして、分類されたそれぞれのクラスターのイメージやクラスター全体のイメージについて尋ね、来日前後の変化があるかどうかについて質問した。最後に、連想項目のイメージについて、プラスイメージの場合は (+)、マイナスイメージの場合は (-)、どちらともいえない場合は (0) の記号を記入してもらい、各イメージを抱くようになったきっかけや媒体などを尋ねた。

調査は、3名の調査協力者が帰国する直前の2017年8月に第二著者が日本語で実施した。誤用については、調査協力者の語りにおいて内容の理解に問題があると思われる誤用は第一著者が修正したが、それ以外の日本語はそのまま掲載した。また、調査協力者が特定されないように本稿では地名、人名などの固有名詞はすべてA、B、Cなどと記号化した。

3. 結果

ここでは、まずクラスター分析の結果を示し、その結果に対する調査協力者自身の解釈とそのイメージが形成されたきっかけについて述べる。

3.1. ベトナム人Aの場合

図1は調査協力者Aのデンドログラムである。このデンドログラムから5つのクラスターに分類して解釈した。

クラスター1は「1. 私が生活する日本の社会 (+)」「2. 私と日本人がつきあうこと (+)」「3. 日本人と外国人が分かり合うこと (+)」「12. 日本の社会で外国人に対する差別がない (+)」「19. 日本人の若者は日本人っぽくない (0)」の5項目でクラスター名は「日本社会」とした。クラスター1について、「日本の社会は上下関係が厳しい。例えば、日本の大学生は同じ年でも学年が違えば先輩にはタメゴを使わないで『です、ます』のように、とても丁寧な言葉を使う。日本人より、外国人のほうが付き合いやすいと思う。日本人は相手のことを考えすぎて、自分の考えを直接言わないで黙ってにこにこ笑っているだけだから、何を考えているのか、私のことが本当に好きか嫌いか分かりにくいから付き合いにくいと思う。日本に来る前に、学校で日本人は厳しくて礼儀正しいと教わったが、日本に来てみると、話し方と性格が日本人っぽくない人もいっぱいいる。日本人は静かというイメージを持っていたが、チューターとかは日本人なのに大変親切でいつもいっぱい話しかけられる。日本人っぽい人は多分あまり先に話しかけないと思う。多分、○学部の日本人学生は、留学生が毎年いっぱい来るから外国人に触れ合うチャンスがいっぱいあって日本人っぽくない人がいっぱいいると思います。例えば、生活がちょっとオープンで、いろんなことにあまり気にしないとか。」と解釈した。また、来日前後の変化については「バイト先は日本人ばかりいるから働きにくいと思う。日本人は何事に気にしすぎる。だから、何をしたらいいか、いろいろ考えてやったほうがいいと思う。でも、今のバイト先でミスしても、店長の私に対する扱いは他の人(日本人)と同じだから差別を感じない。でも日本に来る前にちょっと差別があると思っていた。」と回答した。

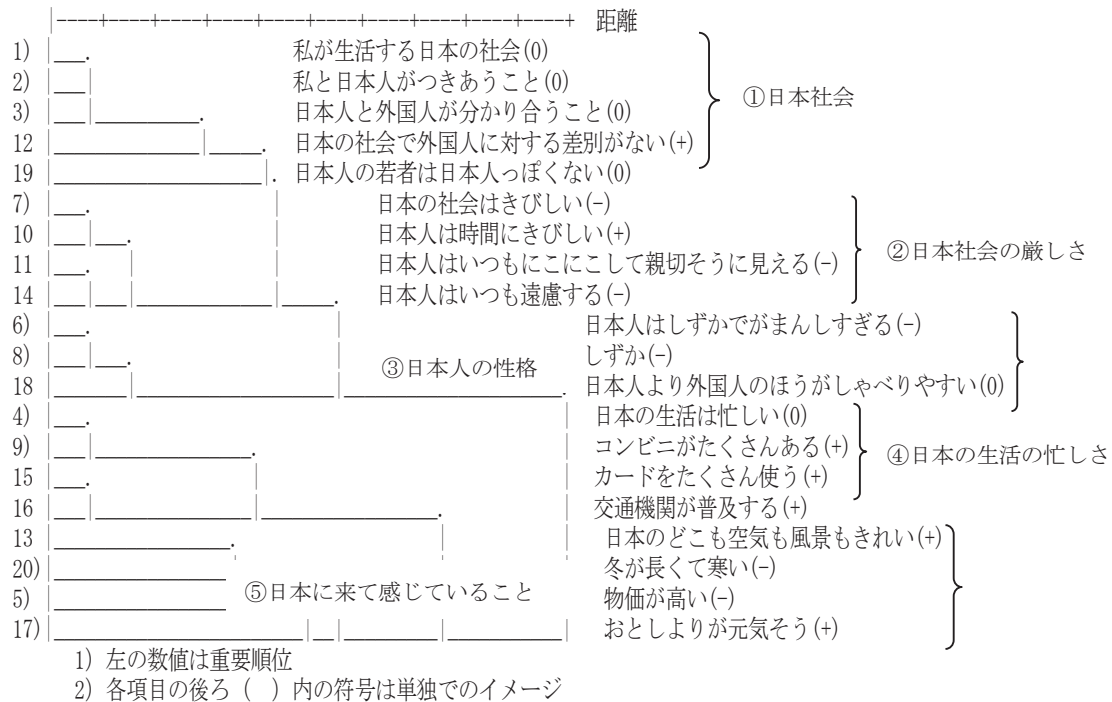


図1 調査協力者Aのデンドログラム

クラスター2は「7.日本の社会はきびしい(-)」「10.日本人は時間にきびしい(+)」 「11.日本人はいつもにこにこして親切そうに見える(-)」 「14.日本人はいつも遠慮する(-)」の4項目で、クラスター名は「日本社会の厳しさ」とした。クラスター2について「日本の社会は多分、厳しいので、日本人は時間とか何でも厳しいと思います。例えば、レポートの締め切りとか、その日にもし出さないと0点とか、マイナスになることになりますけど。ベトナムではもう少し、締め切り明日でも、先生に言って多分、大丈夫だと思いますけど。多分、日本の社会は厳しすぎて、だから日本人は何事に対しても厳しいのは時間、上下関係とか、人間関係とか、先輩後輩の関係とかめっちゃ厳しくて。自分の相手に失礼なこととかすると心配して、何をしたら(いいか)、いつも考えすぎて。だから自分の考えと表情、あまり他の人に出して見せないと思います。だから、いつも日本人の見た目は、にこにこして親切そうに見えます。でも本当は、私、全然分からないんです。」と解釈した。また、来日前後の変化については「厳しい社会だから、にこにこしていたり遠慮したりして、そういう日本人の性格が形成される。ベトナムいたときも同じように考えていたから、イメージも変わらないです。」と回答した。

クラスター3は「6.日本人はずかでがまんしすぎる(-)」「8.しずか(-)」「18.日本人より外国人のほうがしゃべりやすい(0)」の3項目で、クラスター名は「日本人の性格」とした。クラスター3について「日本人は、自分の考え、自分の表情、全然他の人に見せないみたいなので。だから、いつも静かとか我慢しすぎるっていうイメージを持っています。でも、日本人同士は、そんなことはあまりないと思います。盛り上がる。(18番については)日本人の性格は分かりづらい。見た目はいつもにこにこしてたり、親切そうに見えますけど、だから外国人の私に対して、私、多分、分からないことがあったら聞いてみたら、いつも親切に答えてもらって。そのとき、もっと仲良くなりたいなと思って。でも、関係は深くならないと思います。もし関係が深くなりたかったら、お互

いに考えとか感情とかシェアしたほうがいいと思いますけど、日本人は全然何も言わないから、だから仲良くなれないんです。でも外国人は、周りのことにそんなに気にしないから、自分の考え、表情とか。多分、表情を見るだけで、何を考えているのか。嫌いとか好きとか、全部分かりますから。でも、日本人は全然分からないんです。」と解釈した。また、来日前後の変化については「(日本人の) チューターは日本人っぽくないと思いますけど、でも一緒に他の日本人と勉強する授業も取ってます。イメージは、全然変わらないんです。それは、授業で習った。」と回答した。

クラスター4は「4. 日本の生活は忙しい (0)」「9. コンビニがたくさんある (+)」「15. カードをたくさん使う (+)」「16. 交通機関が普及する (+)」の4項目でクラスター名は「日本の生活の忙しさ」とした。クラスター4について「日本人はいつも忙しそうなおこと、何回も聞いたことがありますけど。でも、日本に来る前はそんなに忙しいとは思わなかったんです。日本人はいつも手帳に何があったら絶対メモするじゃないですか。でも私、ベトナムにいたとき、ベトナム人は手帳とかメモ、全然しないんです。例えば(日本人は) 来月、再来月の仕事ですけど、今から計画とかちゃんとしますから。だから、来月のことも日時とか全部決められますから、手帳にメモしないと覚えられないんです。でもベトナム人は、多分そういうことあまりないと思います。私、今、日本に1年近く住んでいて、手帳も持っています。もし手帳をなくしたら、多分困ると思います。日本人の生活は忙しいから、コンビニがたくさんあることに関係あると思います。コンビニで、冷凍のものがいっぱいあって、昼休み多分、短いから、サラリーマンとかコンビニに行って手軽に昼ご飯を食べられますから、コンビニがたくさんあるかもしれないと思います。(カードをたくさん使うことについて) これ、来る前に考えたことがないんです。でも今コンビニでバイトしていますけど、カードを使う人が本当にいっぱいいます。カードの種類もいっぱいあります。ベトナム人はカードあまり使わない。いつも現金で。でも、外国人はカードをたくさん使うっていうことを何回も聞いたことがありますけど、カードがそんなに種類があるとは思わなかった。多分、忙しくて、もしカードにお金をチャージして、支払いも早くなるかなと思います。」と回答した。

クラスター5は「13. 日本のどこも空気も風景もきれい (+)」「20. 冬が長くて寒い (-)」「5. 物価が高い (-)」「17. おとしよりが元気そう (+)」の4項目でクラスター名は「日本に来て感じること」とした。クラスター5について「すべて来る前にもそのイメージを持っていましたが20番は思ったより日本の冬は長くて本当に寒かった。」と解釈した。

クラスター間の比較においては、クラスター1と2は「日本の社会」という共通性があり、クラスター1と3は「厳しい(日本の)社会で生まれますから、日本人の性格も複雑で、日本人と付き合い合うことも難しい」と解釈した。クラスター1と4は「日本の社会は厳しいので、仕事とか何をやっても、ちゃんとしないといけないんですけど。もし外国人だったらそんなにちゃんとしなくても、多分、大丈夫だと思いますけど。日本人はちゃんとしすぎだから、生活ももっと忙しくなるかなと思います」と解釈した。クラスター1と5は「日本人の性格、ちゃんとしますから意識とかも高いと思います。だから、トイレとか街とかいつもきれいにしようという考え、意識を持っている日本人がいっぱいいます」と解釈した。クラスター2と3は「日本人の性格。社会は厳しいから」、クラスター2と4は「ちょっとだけ関係がある。多分、社会が厳しいから何をやってもちゃんとするから、生活ももっと忙しくなると思います。それに、もし生活が忙しくなったら、表情とか考えとか出すこともあまりしたくない、もう疲れちゃうですから。だから、いつも他の人になにこして親切なふりをする」と解釈した。

表1 調査協力者Aの異文化観イメージとそのきっかけ

	イメージ項目	イメージ形成のきっかけ・媒体など
1	1. 私が生活する日本の社会 (+)	無回答
	2. 私と日本人がつきあうこと (+)	無回答
	3. 日本人と外国人が分かり合うこと (+)	無回答
	12. 日本の社会で外国人に対する差別がない (+)	バイト先で/大学で
	19. 日本人の若者は日本人っぽくない (0)	大学で/大学寮 (国際寮) で
2	7. 日本の社会はきびしい (-)	バイト先で/大学で/人間関係の経験
	10. 日本人は時間にきびしい (+)	大学で/バイト先で/イベントで
	11. 日本人はいつもにこにこして親切そうに見える (-)	留学生活から
	14. 日本人はいつも遠慮する (-)	人間関係の経験
3	6. 日本人はしずかだがまんしすぎる (-)	日本人とつきあってみて
	8. しずか (-)	ベトナムで習ったこと
	18. 日本人より外国人のほうがしゃべりやすい (0)	留学生活から
4	4. 日本の生活は忙しい (0)	バイトしてみて
	9. コンビニがたくさんある (+)	留学生活から
	15. カードをたくさん使う (+)	バイト先で
	16. 交通機関が普及する (+)	留学生活から
5	13. 日本のどこも空気も風景もきれい (+)	留学生活から
	20. 冬が長くて寒い (-)	留学生活から
	5. 物価が高い (-)	留学生活から
	17. おとしよりが元気そう (+)	留学生活から

全体については「1年近く住んでいても、日本人と付き合うことも今、まだ難しいと思います。問題は、日本人は表情と考え、他の人に見せたくないと思います。(日本社会については) 厳しくて静かで、ちょっとつまらないと思います。楽しくなさそうです。(日本人と外国人の付き合いについては)日本人と親しくなりたくても、多分なれないと思います。お互いに考えとか感情とかシェアしないんですから。不思議に思ったことは、日本人はなんでそんなに静かとか。例えば、食堂とか。私と友達ずっとしゃべってるから、他の人は私たちの後ろにずっと立ってたことを知らなかったんです。もし外国人だったら、すみませんってちょっと小さな声でもいいし、でも絶対何かを私たちに言ってますけど。日本に来たばかりの頃、いつも日本人のチューターとか、私たちにいろいろな手続きを手伝ってくれました。そのときめっちゃ親切に手伝ってくれましたけど、でも、次の日とかもしその人に会ったら、私たち絶対うれしそうにあいさつしましたけど、その人は多分にこにこするだけで終わりです。日本人は知らないふりをしないですけど、ただ笑うだけ。ベトナム人だったら、知らない人とか初対面の人に対して、そんなにしゃべらないですけど、日本人は逆です。あんまり、初対面の人に対してもいっぱい話してくれましたけど、でも次の日にもし会ったら、私のことを多分、覚えてないかなと。私、見えないかな。それに、日本人はいつも、『ごめん』とか『すみません』、『ありがとう』、いっぱい使うと思います。でも、使いすぎたら、本当に謝りたいとき何を言ったらいいのか、私、分からないんです。普通もいっぱい使いますから。だから私、日本人の『ごめん』とか、『ありがとう』とか、あまり好きじゃないんです。でももし、日本人に対して『ごめん』、『ありがとう』とか使わないと、失礼なイメージを残しますから使いますけど。」と解釈した。

調査協力者 A の異文化観イメージとそのきっかけについて、クラスターごとにまとめたのが表 1 である。無回答のものもあったが、大学での経験から得られたものがクラスター 1 および 2、A が滞在していた大学寮（国際寮）での経験から書かれたものがクラスター 1、バイト先での経験から書かれたものがクラスター 1、2、4 のクラスターに見られた。留学生生活全般の経験から書かれたものがクラスター 4 および 5、そのほか、人間関係の経験や、日本人との付き合いから書かれたもの、ベトナムで習ったことから書かれたものがそれぞれクラスター 2、3 に見られたが、ほとんどが来日後に形成されたものであることが分かった。

3.2. ベトナム人 B の場合

図 2 は調査協力者 B のデンドログラムである。B はデンドログラムを 5 つのクラスターに分類し、解釈した。

クラスター 1 は「1. 私が生活する日本の社会 (0)」「3. 日本人と外国人が分かり合うこと (0)」「5. 寮の友達と一緒に活動に参加して面白かった (+)」「7. 学校のイベントがもっとほしい (+)」「2. 私と日本人がつきあうこと (0)」「4.Q 大学に留学してよかった (+)」「6. 寮の人たちの考え方が違う (0)」「8. テストとレポートがほしくない (+)」の 8 項目でクラスター名は「日本の社会」とした。クラスター 1 について「特に Q 大学と大学寮（国際寮）についての内容だと思います。寮は面白いです。多分、留学生の考え方がみんなそれぞれの考え方持ってますから。いろいろな国から来た留学生ですけど、でもみんな日本語でしゃべって日本の文化、日本の生活、体験していますから。例えばキスのこと。ヨーロッパ人はそれは当たり前のことですけど、でもアジア人はちょっとそれ嫌だなって。（日本人との交流で感じたことは）チューターとよく寮に来ていた日本人と交流しました。でもその人たちは、普通の日本人とちょっと違うと思います。みんな留学生とよく交流しましたから、考え方もちょっとオープンでした。（外国人とあんまり交流をしない日本人は）

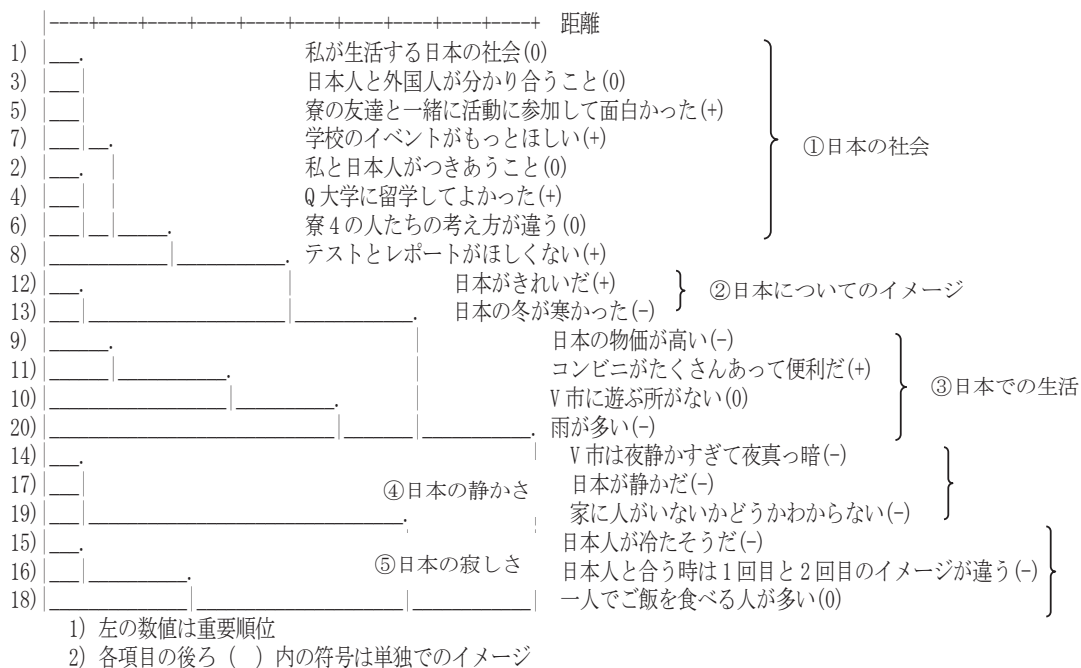


図 2 調査協力者 B のデンドログラム

みんなちょっと恥ずかしくて、話し掛けることあんまりしないです。消極的です。」と解釈した。また、来日前後の変化については「日本人は自分のこと、あんまりはっきり言うことはないと思っていましたが、割とはっきり言う。例えば、ある友達が寮に来て、でも寝る場所ないですから他の日本人に（泊まってもいいか）聞きましたけど、でもその日本人は、ちょっと嫌だと思って断りました。でも、私の考えで、はっきり断ることはないと思ったんだけど、はっきりもう嫌だと言ってた。日本に来る前に、日本人が親切で優しいかなと思ったんですけど、本当に冷たそうです。バイト先でみんなあんまり笑わなくて、多分、自分の考えは、はっきり言いたくないですから、いつも冷たそうな顔をしています。」と回答した。

クラスター2は「12. 日本がきれいだ (+)」「13. 日本の冬が寒かった (-)」の2項目でクラスター名は「日本についてのイメージ」とした。クラスター2について「多分、誰でも知ってる情報だと思います。木とかの景色がきれい。冬の空が本当にきれいでした。青空。冬が寒くてつらかったんです。」と解釈した。また、来日前後の変化については「来る前もそういうこと考えましたが、でもここに来て本当にびっくりしました。こんなに寒いのかって思いました。景色は思ったとおりきれいです。」と回答した。

クラスター3は「9. 日本の物価が高い (-)」「11. コンビニがたくさんあって便利だ (+)」「10. V市に遊ぶ所がない (0)」「20. 雨が多い (-)」の4項目でクラスター名は「日本での生活」とした。クラスター3について「クラスター2と大体、同じ。V市に遊ぶ所がないっていうことは、V市に住んでますから、そういうことを知ってます。で、物価が高い、コンビニがたくさんある、雨が多いって誰でも知っています。」と解釈した。

クラスター4は「14. V市は夜静かすぎて夜真っ暗 (-)」「17. 日本が静かだ (-)」「19. 家に人がいないかどうかわからない (-)」の3項目でクラスター名は「日本の静かさ」とした。クラスター4について「日本に来る前に、そういうことを考えなかったんです。そんなに静かな所だと思わなかった。新しい発見です。ベトナムで夜になると、もっとにぎやかになりますけど、日本はちょっと怖い。バイト帰ったとき、ちょっと静かすぎて怖い。あと日本人もちょっと厳しいと思います。V市の道にライトあんまりないですね。チューターにちょっと聞いてみましたが、おじいちゃん、おばあちゃんが早く寝て、で、もしライトあったら、めっちゃまぶしい。寝れないですって。」と解釈した。

クラスター5は「15. 日本人が冷たそうだ (-)」「16. 日本人と合う時は1回目と2回目のイメージが違う (-)」「18. 一人でご飯を食べる人が多い (0)」の3項目でクラスター名は「日本人の寂しさ」とした。クラスター5について「ちょっと寂しいイメージ。ベトナムで一人でご飯を食べること、多分ないと思います。みんないつも友達とか家族と一緒に食べるんですから。ここに来たばかりの頃、学校に行って1回目、友達に会って、その友達が本当に親切でしたけど、2回目はまたあいさつして、でもその友達に無視されました。知らない人みたいなふりをしました。チューターは、留学生に対して本当にオープンですけど、日本人同士の上下関係が厳しい。留学生に対して年下とか年上は、上下関係あんまり気にしないですけど。日本人同士は先輩とか後輩とかが厳しい。」と解釈した。また、来日前後の変化については「日本に来る前に、日本人が親切で優しい(と思っていた)。でもここに留学して、日本人のイメージがちょっと変わってきました。ちょっと冷たくて厳しいと思います。日本人同士の上下関係も厳しい。あと日本人はいつもにここにしていますけど、本当に何を考えてるか分からないです。いつも親切なイメージ持ってますから、多分あんまりはっきり言わないと思います。」と回答した。

表2 調査協力者Bの異文化観イメージとそのきっかけ

	イメージ項目	イメージ形成のきっかけ・媒体など
1	1. 私が生活する日本の社会 (0)	無回答
	3. 日本人と外国人が分かり合うこと (0)	無回答
	5. 寮の友達と一緒に活動に参加して面白かった (+)	大学で経験して
	7. 学校のイベントがもっとほしい (+)	無回答
	2. 私と日本人がつきあうこと (0)	大学で経験して
	4. Q 大学に留学してよかった (+)	大学、寮で経験して
	6. 寮の人たちの考え方が違う (0)	寮で経験して
	8. テストとレポートがほしくない (+)	大学で経験して
2	12. 日本がきれいだ (+)	観光してみても
	13. 日本の冬が寒かった (-)	V 市で生活してみても
3	9. 日本の物価が高い (-)	野菜、果物の値段から
	11. コンビニがたくさんあって便利だ (+)	V 市で生活してみても
	10. V 市に遊ぶ所がない (0)	自分の経験/皆がよく話すから
	20. 雨が多い (-)	無回答
4	14. V 市は夜静かすぎて夜真っ暗 (-)	V 市で生活してみても
	17. 日本が静かだ (-)	V 市で生活してみても
	19. 家に人がいないかどうかわからない (-)	V 市で生活してみても
5	15. 日本人が冷たそうだ (-)	大学、バイト先で経験して
	16. 日本人と合う時は1回目と2回目のイメージが違う (-)	大学で経験して
	18. 一人でご飯を食べる人が多い (0)	ラーメン屋、食堂を見て

クラスター間の比較においては、クラスター1と3、1と4は「留学生同士は、みんなクラスター3(と4)の内容で同じ考え方を持っています」と回答した。クラスター1と5は「これも日本人はそういうことを普通だと思ってますけど、留学生は同じ考え方、持って、ちょっと自分の文化とちょっと違うかなと思ってます。クラスター3、4、5に関しても留学生は同じことをよく言っているし、大体、意見が同じ」、クラスター2と3は「これは日本についてのイメージで日本の特徴かな」、クラスター2と4は「日本についての内容だったら関係があると思います」、クラスター2と5は「日本人がちょっと冷たくて、やっぱり日本が静かなことと日本人がちょっと冷たいこと、ちょっと関係があると思います。ベトナム人と比べると、ベトナム人はいつもよくしゃべりますから。ベトナムの雰囲気もちょっと楽しくて、あんまり静かではないです。」と、それぞれ解釈した。

全体については「特に残ってる印象は、Q大学と大学寮の印象です。ここに来てから日本人のイメージ、ちょっと変わってきて。前の考え方は、日本人が親切で優しいってイメージが持っていましたけど、ここに来てから日本人もいつも親切ですけど、ちょっと冷たいかなと思って。チューターは普通の日本人と違うから、もし留学生と一緒にいたら大丈夫ですけど、でも日本の社会はよく気にします。上下関係とか、話し方もよく気にします。でもチューターはそういうこともあんまり気にしないです。だからよく普通の日本人に嫌われましたって言いました。」と解釈した。

表2は、調査協力者Bの異文化観イメージとそれが形成されたきっかけをクラスターごとにまとめたものである。大学での経験から書かれたものはクラスター1および5、寮での経験から書かれたものはクラスター1、Bが滞在したV市での生活から書かれたものはクラスター2、3、4に見られた。その他、日本観光から書かれたものがクラスター2、バイト先での経験から書かれたも

のがクラスター5に見られた。これらのきっかけはほとんどが留学後に形成されたイメージであることが分かる。

3.3. タイ人Cの場合

図3は調査協力者Cのデンドログラムである。Cはデンドログラムを4つのクラスターの分類し、解釈を行った。

クラスター1は「1. 私が生活する日本の社会 (0)」「2. 私と日本人がつきあうこと (0)」「3. 日本人と外国人が分かり合うこと (0)」「12. 日本人の英語の発音がおかしい (0)」「4. 日本人は時間通り (+)」の4項目でクラスター名は「日本人のイメージ」とした。クラスター1について「日本人に対して一番感動したものが、時間はすごく守ります。あと、日本人の友達と日本人の友達の文化があります。例えば、何だろう、敬語とかですね。僕は外国人だからそんなことが感じないです。敬語も使わないし。(敬語は) ちょっと便利です。自分の国だったら、後輩と先輩が親しくなっていくと思いますから。(日本に来る前はそのようなイメージは) 持ってないですね。来る前は年上と年下の人、ちょっと距離があると思った。ちょっと関係ないですけど、自分で感じたものは、(アルバイトで) 日本人の年上のお客さんが、もし僕のことを外国人を見たら(外国人だと分かる)、たまにばかにされたこともあります。やっぱり発音が変わるときとか、自分の方言を使って、もし僕何か言って間違ったら、笑われちゃうこともあります。馬鹿にされたと感じた。ちょっと嫌だった。(12番について) たまに日本人は僕が、日本語ができるか分かんないですから、英語で話し掛けられましたけど、でも相手に感じたものは、日本語か英語かしやべってるか全然分かりませんでした。2回目聞いたら分かるようになりました。あと、これも書いてないですけど、バイトし

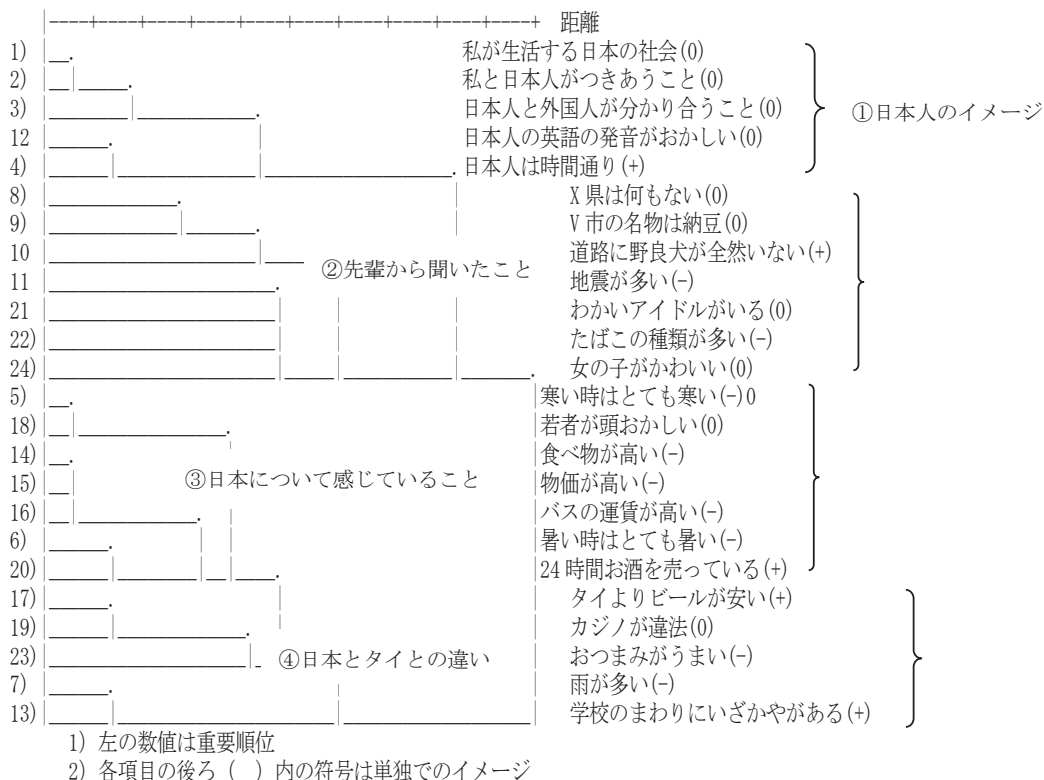


図3 調査協力者Cのデンドログラム

たときは日本人の、年上のお客さまが、『東南アジアの人？タイ、ベトナムとか、出身はどこですか』『タイです』と言ったら、ちょっとむかつくような質問を聞かれたんですけど、『なんでタイで仕事をしないの？』とか。ちょっと失礼。僕、そんな質問を聞かれたから『僕、留学にしに来ました』（と答えました）。ちょっと嫌だったですね。」と解釈した。

クラスター2は「8.X 県は何もない (0)」「9.V 市の名物は納豆 (0)」「10. 道路に野良犬がぜんぜんいない (+)」「11. 地震が多い (-)」「21. わかいアイドルがいる (0)」「22. たばこの種類が多い (-)」「24. 女の子がかわいい (0)」の7項目でクラスター名は「先輩から聞いたこと」とした。クラスター2について「これは大体、去年ここで留学した先輩たちとか聞いたんです。特に8番は、X 県は何にもないことは、実は結構ありますけど、でも行き方とかちょっと不便ですから。道路に野良犬がいない。それからたばこの種類が多い。これを強く感じて。タイには野良犬が結構います。前に聞いたんですけど、全然いないのはあり得ないじゃないですかと思ったんですけど。」と解釈した。また、来日前後の変化については「イメージがあんまり変わらないです。特に10番と22番は強く感じているし、このイメージは日本に来てより強くなった。22番はバイト先はコンビニなので、すごく感じられました。何種類もあるので、頼まれたときは結構、時間かかったから。24番、日本人の女の子がかわいいと大体タイ人のみんなのイメージを持っているが、実はそんなことないです、みんなではないですから。だからイメージが変わったのは8番と24番です。」と回答した。

クラスター3は「5. 寒い時はとても寒い (-)」「18. 若者が頭おかしい (0)」「14. 食べ物が高い (-)」「15. 物価が高い (-)」「16. バスの運賃が高い (-)」「6. 暑い時はとても暑い (-)」「20.24 時間お酒を売っている (+)」の7項目でクラスター名は「日本について感じていること」とした。クラスター3について「自分の気持ち。クラスター1はちょっと真剣な考え方ですが、クラスター3は、ちょっとくだらない考え方です。18番は日本人の若者と社会人の差。社会人のイメージの方が、みんなちょっと、何だろう、厳しい顔。若い人はちょっと頭おかしいみたい。例えばもし東京に行ったら、みんながやることがちょっとおかしいなと思って。例えば、着てる服とかコスプレとか、たまに、何だろう、意味が分かんない言葉が、叫んだりとか。ちょっとおかしいというのは悪い意味じゃなくて、面白いですね。20番は、24時間お酒売っていることは、タイでは夜12時まで。だからそんなことは素晴らしいなと思って。」と解釈した。

クラスター4は「17. タイよりビールが安い (+)」「19. カジノが違法 (0)」「23. おつまみがうまい (-)」「7. 雨が多い (-)」「13. 学校のまわりに居酒屋がある (+)」の5項目でクラスター名は「日本とタイとの違い」とした。クラスター4について、「自分の国と違うこと、例えばビールが安い。タイに比べると、おつまみが美味しい。学校の周りに居酒屋がある。タイでは学校の周りに飲み屋はない。タイも雨が多いけど、日本は降る時間がちょっと長い。」と解釈した。また、来日前後の変化については「日本に来てから分かったことです。好きどころと、好きではないところがあります。好きどころはビールが安いことで、好きじゃないところは雨の降る時間が長いことです。タイではもし学校の周り居酒屋があったら、それは駄目。違法です。」と解釈した。

クラスター間の比較においては、クラスター1と2は「クラスター1は大体人間関係で、クラスター2は大体、日本とX県のイメージ。」と、クラスター1と3、1と4は「理解できたら、生活が楽しくなります。」、クラスター2と3、2と4は「生活してみて感じたイメージです。」、クラスター3と4は「タイと全然違うもの」と、それぞれ解釈した。

全体については「日本の生活がタイと違う。例えば物価と文化、もちろん言語も違うので、最初に来てから、あんまり覚えてないですけど1回はちょっとまずいな、大変だなと思ったんですけど、

でも時間がたって周りの友達のおかげで、慣れてからちょっと楽しいなと思って、もう帰国したくない感じです。今は今ちょっと楽しくなってきたってことなんですね。最初は言語の問題とお金が一番大変でした。物価多分7、8倍ぐらい高いです、食べ物と運賃とか特に高い。だからタイで日本に来る前に3年間ぐらいアルバイトして貯めたお金を1年間の生活で全部なくなりました。でも逆に日本で10カ月ぐらいアルバイトしてから、3年間前のお金が、戻りました。文化の違いも感じました。ちょっと面白い話なんですけど、日本人、誰かのお部屋に入ることは、靴下履いたまま来るんじゃないですか。でもタイだったら、もし靴下履いたまま、ちょっと臭いがするから、失礼だと思います。タイでは靴を脱いで、足洗って部屋に入るんです。また友達と一緒に遊んだときと、学校来るときもちょっと便利で楽しかったです。タイにいるときはバンコクに住んでいますので、すっごく渋滞ですごく時間かかります。」と解釈した。

表3は、調査協力者Cの異文化観イメージとそれらが形成されたきっかけをまとめたものである。Cの場合は、「自分でそう感じたから」と答えているものが目立つが、クラスター2、3、4に見られた。その他の回答としては、日本人と英語で話した経験や、バイト先での経験、(時間を)守らなくて怒られた経験、X大学の周りを見て感じたことから書かれたものがそれぞれクラスター1、2、4に見られた。調査協力者A、Bと同様、ほとんどが来日後に形成されたものであったことが分かった。

表3 調査協力者Cの異文化観イメージとそのきっかけ

	イメージ項目	イメージ形成のきっかけ・媒体など
1	1. 私が生活する日本の社会 (0)	無回答
	2. 私と日本人がつきあうこと (0)	無回答
	3. 日本人と外国人が分かり合うこと (0)	無回答
	12. 日本人の英語の発音がおかしい (0)	日本人と英語で話してみても
	4. 日本人は時間通り (+)	守らないと怒られた経験から
2	8. X県は何もない (0)	先輩から聞いたから
	9. V市の名物は納豆 (0)	先輩から聞いたから
	10. 道路にのら犬が全然いない (+)	自分で見たから
	11. 地震が多い (-)	自分で見たから
	21. 若いアイドルがいる (0)	先輩から聞いたから
	22. たばこの種類が多い (-)	バイト先で感じたから
3	24. 女の子がかわいい (0)	自分でそう感じたから
	5. 寒い時はとても寒い (-)	自分でそう感じたから
	18. 若者が頭おかしい (0)	自分でそう感じたから
	14. 食べ物が高い (-)	自分でそう感じたから
	15. 物価が高い (-)	自分でそう感じたから
	16. バスの運賃が高い (-)	自分でそう感じたから
	6. 暑い時はとても暑い (-)	自分でそう感じたから
	20. 24時間お酒を売っている (+)	自分でそう感じたから
4	17. タイよりビールが安い (+)	自分でそう感じたから
	19. カジノが違法 (0)	どうでもいいが見たから
	23. おつまみがうまい (-)	自分でそう感じたから
	7. 雨が多い (-)	自分でそう感じたから
	13. 学校のまわりに居酒屋がある (+)	X大学の周りを見たから

4. 考察

これらの結果から、(1) 調査協力者の学生がどのように日本社会を理解しているか、(2) 日本人との付き合いや相互理解について、どのように捉えているか、(3) それぞれの調査協力者に見られた特徴的な点の3つの観点から考察を行う。

4.1. 日本社会について

①上下関係の厳しい日本社会

Aは「日本の社会は上下関係が厳しい」と述べ、同じ年齢でも学年が違えば先輩に敬語を使うことを例に挙げていた。Bもまた、「日本人同士は先輩とか後輩とかが厳しい」と述べている。しかしこれらは必ずしもマイナスのイメージとして捉えるのではなく、Cの「先輩・後輩の間で使われる敬語は、関係を築くためには便利である」の解釈のように、ポジティブに捉えている場合もある。

②時間に厳しい日本社会

Aは、日本人の時間の厳しさについて「例えば、レポートの締め切りとか、その日にもし出さないと0点とか」と出身国のベトナムと比べて厳しいことを述べている。Cも「日本で一番感動したこと」として時間を守ることをイメージとして挙げている。このように日本人の時間の厳しさについて、出身国との習慣の違いに戸惑いを覚えながらも調査協力者なりに異文化に適応しつつポジティブに捉えようとする様子が窺える。日本人の時間の厳しさについては、ベトナム人留学生を研究の対象とした安(2011)、松田(2013)にも同様の結果が見られた。

③物価の高い日本

インタビューではあまり言及されていないが、3名とも「物価が高い」ということを挙げていた。物価については、インドネシア人を対象とした安(2016)の調査にも見られた。このことから、日本の物価の高さは東南アジア出身留学生の学業や日常生活に少なからず影響を及ぼすものと推測される。

④留学環境に対する評価

学生が滞在していたX県V市について、Bは「そんなに静かなところだと思わなかった」、Cは先輩から聞いていたが、「X県は何もない」と答えた。Cは「実は結構ありますけど」としたものの、「でも行き方とかちょっと不便ですから」と、交通の不便さも挙げていた。このように、留学先の留学環境については留学前の情報と、実際の生活環境とのギャップを感じてようである。

⑤日本の気候に対する評価

日本の気候について、Aは「思っていたより日本の冬は長くて本当に寒かった」、インタビューではあまり述べられていないが、B、Cも寒さについてはイメージ項目として挙げていた。このことから日本の気候に対してネガティブに評価している様子が窺える。

4.2. 日本人との交流について

①消極的な日本人に対する評価

Aは、「日本人は相手のことを考えすぎて、自分の考えを直接言わないで黙ってニコニコ笑っているだけだから何を考えているのか」分かりにくいと述べていた。そのために、日本人と「関係は深くない」としている。さらに、「もし関係が深くなりたかったら、お互いに感情とかシェア

したほうがいいと思いますけど、日本人は全然何も言わないから」仲良くなれないが、「外国人は、周りのことにそんなに気にしないから」表情を見るだけで何を考えているか分かると述べている。これは、初対面で親切にしてくれた日本人の学生が、次に会った時にはよそよそしく振る舞い、にこにこしているだけだったという経験からきているが、Bもまた同じような経験として、1回目に会ったときは親切だったが、2回目に会った時は「無視されました」と述べていた。ただしBは、「はっきり言う」人もいる例として、寮に泊めさせてほしいと頼んだ日本人の友だちに対して、他の友だちははっきり断っていたという経験を語っていた。

またAは、日本人は「なんでそんなに静か」なのかと思った経験として、食堂で友達と話していたときに後ろに立っている人がいることに気づけなかった時、「もし外国人だったら、すみませんってちょっと小さい声でもいいし」何か言っていると、何も言わない日本人のことを「不思議に思った」と述べていた。

日本人が消極的で本音が分からないというイメージについては、先に述べた先行研究でも同様の結果が見られた(安 2011; 2016、松田 2013、八若 2012)。

②アルバイト先での経験に対する異なる評価

Aは、バイト先では同じように扱われるので、日本に来る前は日本に差別があると思っていたが、「差別を感じない」としていたが、対照的に、Cは、バイト先で日本人の年上の客から、Cが外国人と分かると「発音が変なとき」や方言が分からないとき、表現を間違えたときなどに笑われた経験について「馬鹿にされたと感じた。ちょっと嫌だった」と述べていた。また、タイ人と分かると「なんでタイで仕事をしない」のかと聞かれたことについては、「ちょっと失礼」「むかつく質問をされた」と答えていた。「差別」については、調査協力者が置かれたアルバイト環境によって評価が全く異なることがわかる。

③外国人に積極的な日本人に対する評価

3名が交換留学生として在籍していたQ大学には、来日後に留学生のサポートを行う学生チューター制度があり、今回の調査でもチューターとの経験がAとBのインタビューでも語られていた。インタビューでは、日本人チューターは「日本人っぽくない日本人」「普通の日本人と違う」という捉えられ方をしているのが分かる。具体的には、Aは「話し方と性格が日本人っぽくない」、「日本人は静かというイメージを持っていたのに、…チューターは日本人なのに大変親切でいつもいっぱい話しかけられる」と述べている。Bはチューターについて「留学生とよく交流しましたから、考え方もちょっとオープン」だったとしている。このように日常的に外国人と積極的に関わりを持っている日本人とそうではない日本人とのギャップに戸惑いを感じているようである。特に、Aは前述の「自分の考えを言わない」日本人に対しては「不思議に思った」と評価し、日本人チューターのように外国人に積極的に関わりを持つようとする日本人については「日本人っぽくない日本人」と評価しているように、両者の間のギャップが強く印象に残っているようである。

4.3. 「東南アジア出身留学生」という立場からの異文化理解の特徴

本研究において、これまでの先行研究ではあまり見られなかった特徴的な点として、1点目には、留学生としての視点が挙げられる。AとBは、「日本人」と「留学生」あるいは「外国人」のように、出身国は違っていても留学生全体を「自分たちの視点」として捉えていることが分かる。また一方で、留学生と交流が多い日本人チューターを「日本人っぽくない日本人」として別のカテゴリーとして見ていると考えられる。

2点目は、Cのバイト先での経験として語られた日本人とのやり取りである。これは日本に留学しているCが、(特に学外において)日本人からどのように見られているのかについて、Cが感じたこととしても特徴的であると言える。大学内であればCが主に接するのは日本人学生であり、留学生として見られるのに対し、学外のアルバイト先では「外国人」として見られる。Cは、「年上のお客さま」と年齢層を限定しているが、自分が話す日本語を笑われたり、「なぜ日本で働いているのか」という質問をされたりすることにより、馬鹿にされたと感じたり、嫌な思いをしたと率直に述べていた。一方で、このような経験はAやBの調査からは見られず、Aはむしろ日本で差別を感じないとした。

5. まとめ

ベトナムおよびタイ出身の留学生が日本社会をどのように理解しているのかについて、「時間に厳しい」「物価が高い」等、先行研究にも見られた結果が得られた一方で、「上下関係が厳しい」「X県・Y市には何もない・静かだ」、「日本は寒い」といった先行研究には見られなかった結果もあった。また、日本人と付き合うことをどのように捉えているのかについて、「(日本人は)自分の考えを言わないので分かりにくい」「消極的」「日本人と関係が深くなれない」といったイメージは、先行研究にも見られるものであった。しかし、日本人の中にも「日本人っぽくない日本人」がいるということが述べられており、「普通の日本人」とは区別されていることが分かった。また、アルバイト先での経験は学生によって異なっており、「差別は感じない」とした学生がいた一方で、日本人の客に日本語を馬鹿にされたり、嫌な質問をされたことが分かった。このことから、日本留学中に置かれた環境や知り合った日本人によって日本社会や日本人に対する評価が大きく変わる可能性が推測される。

今後、日本人との関係を築いていく中でどのように日本社会を捉えているのかについて、さらに研究を進めていく必要がある。またその際に生じる衝突や、留学生が感じる葛藤や違和感についても研究を進めていき、どのように相互理解が可能かを検討していきたい。

付記

本論文は日本学術振興会学術研究助成基金助成金基盤研究(C)(課題番号17K02838, 研究代表者:安龍洙)の助成によるものである。

参考文献

- 安龍洙(2011)「外国人の対日観の変容に関する研究—ベトナム人留学生の場合—」『茨城大学留学生センター紀要』9, 1-8.
- 安龍洙(2016)「インドネシア人交換留学生の日本留学観に関する一考察」『茨城大学留学生センター紀要』14, 1-17.
- 八若壽美子(2012)「マレーシア人留学生の日本・日本人イメージに関する事例研究」『茨城大学留学生センター紀要』10, 43-57.
- 松田勇一(2013)「外国人の対日観の変容に関する研究—ベトナム人留学生の場合—」『茨城大学留学生センター紀要』11, 97-111.